

野外彫刻・アートによる まちづくり活性化プラン

～UBEビエンナーレのこれまでとこれから～



宇部市

2019年 9月

UBEビエンナーレ”改革の10年”、その先の未来に向けて

戦争で荒廃したまちの復興と、心の豊かさを取り戻そうと願う市民運動を契機に始まったUBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)は、まちづくりにアートを取り入れた日本初の先駆的な取り組みでした。開始から半世紀以上の歴史を刻み、UBEビエンナーレは今や世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクールとなりました。200点を超える野外彫刻が市街地や公園など市内のいたるところで常設展示され、私たちは生活の中で多彩なアートに出会うことができます。

しかし、これまでのUBEビエンナーレは、彫刻家や建築家など、一部の専門家からは高い評価を受けるものの、市民にとってあまり馴染みのない、遠い存在となっていました。また、国内を代表する彫刻家の作品が集まるコンクールでありながら、全国的な知名度は低く、いつしか市民の関心も薄れて入場者数も低迷し、開催の継続を疑問視するような声もありました。

このような状況の中、本市は2011年のUBEビエンナーレ50周年を契機に、UBEビエンナーレ60周年(市制施行100周年)に向けた10年を“改革の10年”と位置づけ、これまでの形式にはこだわらず、時代の変化に合わせたさまざまな改革に挑戦してきました。

UBEビエンナーレの運営に市民参加の仕組みを導入するとともに、アーティストと市民との交流など、多彩な企画展を開催。加えて、審査会のリアルタイムな公開・配信や、市内全小中学生を対象とした彫刻教育にも積極的に取り組み、国内外での積極的なPR活動なども功を奏し、2017年開催の第27回展では、約10万人もの来場者をお迎えすることができました。さらに第28回展では、新たに2つの部門(アーティスト・イン・レジデンス部門、プロポーザル部門)を創設。世界各国からの多様なアート作品への門戸も広げています。

本書は、これら改革の記録と、先人が築き上げてきたUBEビエンナーレをさらに発展させ、60周年、その先の未来につなげていくためにさまざまなプランを提示しています。

さらなる発展に向けて、UBEビエンナーレは、これからも挑戦を続けます。

2019年 9月

宇部市長

久保田右子



野外彫刻・アートによるまちづくり活性化プラン 目次

1 章	市民提言以降の UBEビエンナーレの取り組み分析	04
1.1	市民提言とUBEビエンナーレの歴史	
1.2	市民提言以降のUBEビエンナーレの活動のまとめ（改革の10年）	
2 章	野外彫刻のまちなか設置基本方針	34
2.1	概要	
2.2	設置にかかる手順について	
2.3	彫刻設置の方針	
3 章	UBEビエンナーレのミュージアムとしての機能強化プラン	40
3.1	概要	
3.2	プラン1 UBEビエンナーレビジターセンター整備プラン	
3.2	プラン2 UBEビエンナーレレジデンススタジオ整備プラン	
4 章	UBEビエンナーレまちなか会場プラン	54
4.1	概要	
4.2	UBEビエンナーレまちなか会場プラン	
4.3	UBEビエンナーレまちなか会場の運営方針案	
5 章	彫刻教育についての基本方針	60
1	宇部市の小学校、中学校と連携した彫刻教育の継続・強化・展開	
2	高校生、大学生、社会人を対象にした彫刻教育の展開	
3	彫刻家や美術家を志す若者を対象にした彫刻教育の展開	
6 章	広報発信についての基本方針	62
1	グローバルな情報発信	
2	国内都市圏での広報発信	
3	芸術系大学に向けての広報発信	
4	都市計画（地域核）と連動した広報発信	
7 章	対話型市民ワークショップの記録	64
	第1回「愛される彫刻とは何か？」	
	第2回「愛される街とは何か？」	
	第3回「オーブンブレスト / 企画書づくり」	

1 章 市民提言以降のUBEビエンナーレの取り組み分析

1. 1 市民提言とUBEビエンナーレの歴史

1 市民提言

背景

野外彫刻展50周年を機に、UBEビエンナーレの今後のあり方について、広く市民の意見を求めるため、2012年（平成24年）2月から5月の期間に設置された「UBEビエンナーレを考える会」によって提出された。

提言の内容

- ・「UBEビエンナーレ世界一達成市民委員会」の設置
→50年後の彫刻展を見据え、引き続き市民が議論を行うための常任委員会として、市民委員会を設置。2年を任期とし一般公募により募集。広報・PRやイベントなどの委員会主催事業について協議・実施。
- ・UBEビエンナーレの取り組みの方向性としては、「教育」「観光」「普及」「広報」を項目にあげている。



UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）は、宇部市の戦後復興の過程で生じた都市環境改善、青少年健全育成を目指す市民運動を契機として創設され、その後順調に発展し、宇部市が緑と花と彫刻のまちと称される所以となるとともに、若手・中堅作家の登竜門としての評価が定着することとなりました。2007年の第22回展以降は、海外作品の募集を本格化し、国際的彫刻展としての性格を深めています。

その取り組みは、彫刻家や美術関係、都市計画関係の専門家等には高く評価されているものの、一部の市民ボランティアの活動を除き、一般市民の関心は十分とは言えません。

本会では、上に述べた宇部市の文化、歴史に深く根ざしたUBEビエンナーレの意義を再確認するとともに、高まりつつある市民による活動を一層盛り上げ、市民に愛される、市民のためのビエンナーレとする方策について協議いたしました。

この結果、この宇部市ならではの貴重な財産を後世に継承するとともに、『笑顔あふれる「元気都市宇部」』創造の観点から、以下のとおり市長に提言します。

（提言）

今後のUBEビエンナーレ開催のスローガンとして、

「新たなスタート 世界一のUBEビエンナーレに」

を掲げ、宇部市民、彫刻家、来宇者（市外からの来場者）に向けて明確にアピールするとともに、市民総参加で世界に誇れるUBEビエンナーレとしての定着を図ることにより、UBEビエンナーレのさらなる発展を図ること。

提言を具体的に推進する方法として、下記方策を提案します。

1 UBEビエンナーレの運営について

下記運営体制により、市民や関係機関との強力かつ効率的な連携のもと、UBEビエンナーレを運営すること。

1、UBEビエンナーレ世界一達成市民委員会の設置

- (1) 彫刻に関わるボランティアグループ等と連携するとともに、市民の意見反映・集約し、UBEビエンナーレ、彫刻設置について広く議論を行う常設委員会を設置する。
- (2) 同委員会は、UBEビエンナーレ事務局、さらには同事務局を通じて、運営委員会に市民意見を提言するとともに、両組織と連携し活動する。

2、UBEビエンナーレ専任組織の設置

- (1) UBEビエンナーレ事務局については、UBEビエンナーレの運営及び関連業務の実施において、専門的で独立した権限、責任をもつ専任組織とする。
- (2) 業務の執行に十分な学芸員を増員する。

2 UBEビエンナーレのイベントについて

UBEビエンナーレのイベントについては、「教育」、「観光」、「普及」、「広報」の各項目において総合的にUBEビエンナーレの魅力を創造し、そのために彫刻単体だけでなくプラスアルファの楽しさを加えることで、「市民総参加で彫刻に親しめる仕組みづくり」に取り組むこと。

2 UBEビエンナーレの歴史

UBEビエンナーレの流れ

- ・一次審査…本展開幕の前年に公募を行い、応募があった約10分の1スケールの模型作品によって行われる（第28回展からはドローイングによる応募も可能となった）。
- ・実物制作指定作品の設置…一次審査で選出された作品のうち、実物制作に指定された作品は、実物大の野外彫刻として制作され、本展開幕年の夏、展示会場に搬入・設置される。
- ・二次審査…開幕前日に開かれる二次審査によって、各受賞作品が決定。
- ・賞の選考…美術評論家、彫刻家、建築家などで構成されている選考委員会による賞のほか、会期中の来場者の投票によって決定する賞（市民賞）がある。
- ・市内への設置…上位受賞作品（宇部市賞、宇部興産グループ賞ほか）の内、市の買い取りとなったものは、野外彫刻展終了後、市内に恒久設置される。

UBEビエンナーレの歴史

UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）のはじまりは、戦争で荒廃したまちの復興と、心の豊かさを取り戻そうと願う「緑化運動」や「花いっぱい運動」などの市民運動を契機としている。

1958年、宇部市は花の種子を購入するために集められた基金の一部でファルコネの「ゆあみする女」の複製品を購入。宇部駅（現在の宇部新川駅）前広場の噴水池に設置したところ、市民の好評を得る。芸術性の高い彫刻を集め、青少年の教育や、若手芸術家の育成にも寄与しようという気運の高まりは「街を彫刻で飾る運動」へと発展。1961年、ついにときわ公園を舞台に、日本初の大規模な野外彫刻展「第1回宇部市野外彫刻展」が開催される。

こうして、世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクールは、名前を変えながらも2年に1度のビエンナーレ方式で開催を続け、「彫刻展の開催」と受賞作品を主とした「彫刻設置事業」により、彫刻のまち宇部の原動力となって、半世紀以上の歴史を刻んでいる。

ここでは、UBEビエンナーレの歴史と背景となる宇部のまちづくりの歴史をまとめた。



戦災により荒廃したまち



工場から排出される黒煙



宇部新川駅前に設置された「ゆあみする女」



「第1回宇部市野外彫刻展」の様子

改革の10年

市は、先人が築き上げてきたUBEビエンナーレをさらに発展させ、次代につなげていくため、2011年のUBEビエンナーレ50周年を機に、UBEビエンナーレ60周年（市制施行100周年）に向けた10年を“改革の10年”と位置づけ、これまでの形式にはこだわらず、時代の変化に合わせたさまざまな改革に挑戦している。



彫刻のあるまちづくりサミット



野外彫刻半世紀展50
/福岡県・北九州市



UBE ビエンナーレ@カステジョン
/スペイン



PR展@瀬戸内国際芸術祭
/香川県・小豆島



UBE ビエンナーレPR展
@国際アートフェア「MARTE」
/スペイン



第4回昌原彫刻ビエンナーレ開幕式参加
/韓国



まちなかアートフェスタ



うべの里アートフェスタ

(UBE ビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ開催)



宇部市芸術祭



UBE ビエンナーレ アーティスト・イン・レジデンス部門

宇部のまちづくりの歴史

毛利氏家老福原14代元俊、宇部を治める

常盤池築造完成

常盤公園が市に寄付され、一般に公開される

空襲にて市街地消失

「宇部を花で埋める会」発足

常盤公園完成、常盤湖に白鳥を放養

「市民公園を花で埋める」発足

宇部市緑地化運動推進委員会が組織化

山口宇部空港開港

石炭記念館が落成

1970年初頭
スプロール化

日本文化デザイン会議より「地域文化デザイン賞」受賞

緑の都市賞「建設大臣賞」受賞

緑化推進運動功労者「内閣総理大臣賞」受賞

宇部市のキャッチフレーズ「緑と花と彫刻のまち」へ

常盤公園が「さくらの名所百選」に選ばれる

1990年代半ば
中央町の空洞化

ときわ湖水ホール完成

楠町を宇部市に編入

緑と花と彫刻の博物館”ときわミュージアム”開館

山口宇部空港に新たに10点の野外彫刻を設置

宇部市文化創造財団設立

まちじゅうアートフェスタ開催

ときわ公園活性化基本計画策定（改定）
ときわ動物園グランドオープン

ときわミュージアム世界を旅する植物館
リニューアルオープン

UBEビエンナーレにアーティスト・イン・レジデンス部門新設

ガーデンシティうべ構想策定

UBEビエンナーレ （現代日本彫刻展）の歴史

「ゆあみする女」が宇部新川駅に設置される

「全国彫刻コンクール応募展」

常盤公園 第1回野外彫刻展を開催

「現代日本彫刻展」として隔年で開催

シンポジウム「ひろばと緑と彫刻と」開催

広く海外に応募を募るため「現代日本彫刻展」を
「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」と名称変更
彫刻と遊ぶ！宇部彫刻まつり（宇部彫刻まつり実行委員会）

彫刻のあるまちづくりサミット開催
野外彫刻半世紀展50（会場：北九州市立美術館）
第24回 UBEビエンナーレ 開催（50周年）

市民による「UBEビエンナーレを考える会」設置
提言書提出
UBEビエンナーレ世界一達成市民委員会設置

第25回 UBEビエンナーレ開催
「フォーラム立ち昇れ！アートの湯けむりBEPPU×UBE」開催
瀬戸内国際芸術祭との連携事業に関する協定を締結

「UBEビエンナーレ@渋谷ヒカリエ／東京」開催
「UBEビエンナーレ@カステジョン／スペイン」開催
市内全小学校4年生を対象に彫刻鑑賞授業を開始
第26回 UBEビエンナーレ開催

PR展@瀬戸内国際芸術祭／小豆島」開催
UBEビエンナーレ大賞作家が瀬戸内国際芸術祭の招待作家
として出品（瀬戸内国際芸術祭との連携事業に関する協定による）

ビクターセンター「UBEビエンナーレライブラリー」を
ときわミュージアムに開設
「PR展@九州国立博物館」開催
「PR展@国際アートフェア「MARTE」／スペイン」開催
「カステジョン・デ・ラ・ブラーナ彫刻パネル写真展」開催
「金浦国際彫刻公園パネル写真展」開催
第27回 UBEビエンナーレ開催

UBEビエンナーレにアーティスト・イン・レジデンス部門と

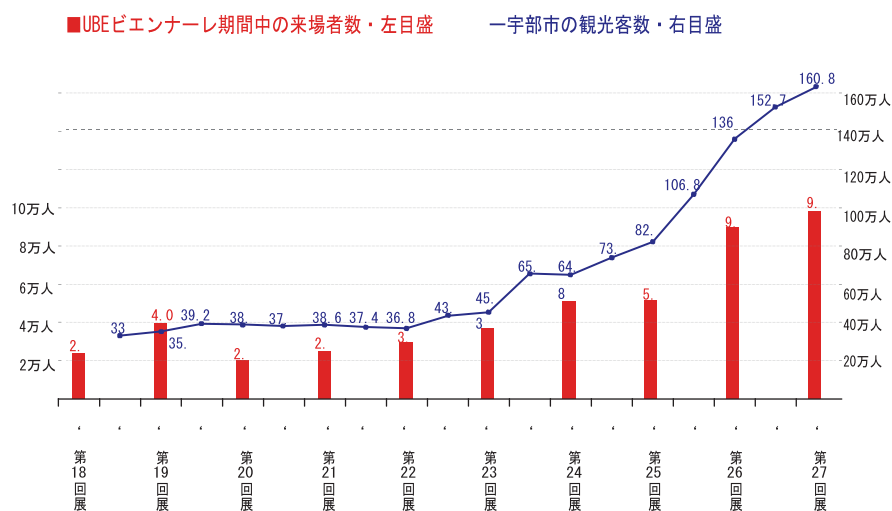
プロポーザル部門の2部門を新設
第4回昌原彫刻ビエンナーレ開幕式参加
彫刻創造交流発信プロジェクト市民ワークショップ開催
UBEビエンナーレ60周年

UBEビエンナーレ70周年

3 UBEビエンナーレの集客数と宇部の観光客数

UBEビエンナーレは、市民賞の創設や彫刻教育の推進など、市民がより彫刻に親しめるような仕組みを導入するとともに、渋谷ヒカリエでのPR展(2015年)やスペイン・国際アートフェア「MARTE(マルテ)」(2017年)への参加、瀬戸内国際芸術祭や九州国立博物館との連携など、国内外にも積極的な情報発信に取り組んでいる。

こうした取り組みにより、市民をはじめ国内外においても、彫刻展への関心は徐々に増えてきており、2017年度(平成29年度)開催の第27回UBEビエンナーレの来場者数は、過去最高の98,450人となった。



第18回展 (1999年)	24,000人	※21世紀未来博覧会 (山口きらら博) 開催年
第19回展 (2001年)	40,000人	
第20回展 (2003年)	20,000人	
第21回展 (2005年)	25,000人	
第22回展 (2007年)	30,000人	
第23回展 (2009年)	37,000人	
第24回展 (2011年)	51,000人	
第25回展 (2013年)	51,843人	
第26回展 (2015年)	90,024人	
第27回展 (2017年)	98,450人	

1. 2 市民提言以降のUBEビエンナーレの活動のまとめ（改革の10年）

1 市民賞（緑と花と彫刻の博物館賞）の制定

背景・概要

UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）の受賞作品は、美術評論家や建築家などの専門家で構成される選考委員会の審査で選ばれるが、「市民賞（緑と花と彫刻の博物館賞）」は審査員が評価するのではなく、来場者（市民）が投票する賞である。

これまでも実施されていた市民が投票し決定する賞（第18回展～第23回展「私の好きな模型作品」及び「市民賞」）は、2011年（平成23年）第24回展に受賞作品の模型を市が購入する「市民賞（緑と花と彫刻の博物館賞）」として統一・整理された。専門家の選考委員が選ぶ作品とは異なる視点で作品が選定され、購入された作品は、彫刻教育の鑑賞授業や、ギャラリーの展示などで活用されている。

成果

市民が選ぶ賞ができたことによって、市民も作品の選考に参加することができるようになった。また、これまでは実物作品のみを買い上げていたが、市民賞の創設により模型作品のコレクションが増え、展示やイベント、彫刻教育に活用できるようになった。

現在

第25回展市民賞「じいちゃんの鼻の穴に宇宙があった。」、第26回展市民賞「いしずえ」の実物作品は、寄贈により市内に残されたが、27回展市民賞の「アフターアップル」は、実物作品の買い上げ賞でないため、作家のもとに戻された。

そのため、2019年（令和元年）第28回展では、市民が選んだ実物作品を市内に設置するためにも賞の在り方の見直しを行い、「市民賞（緑と花と彫刻の博物館賞）」を模型・実物作品とも買い上げ賞へ変更している。



第 27 回（2017 年開催）
石上和弘：アフターアップル



第 26 回（2015 年開催）
浅野芳彦：いしずえ



第 25 回（2013 年開催）
佐藤圭一：じいちゃんの鼻の穴に宇宙があった。

2 彫刻教育の実施

背景・概要

市内小中学校での出前授業、市内全小学校4年生を対象とした UBEビエンナーレ鑑賞授業をはじめ、ときわ湖水ホールアートギャラリーやUBEビエンナーレライブラリーを会場に、アーティストを講師に迎えたワークショップを毎年実施している。

成果

- ・ 彫刻教育、ワークショップ参加人数 27,470人
(※平成23年度～平成29年度までの実績総数)
- ・ 2015年 見初小学校が時事通信社 教育奨励賞「努力賞」を受賞

講評

- ・ 小学校教育から発展させて、未就学児から高校生までに彫刻教育を行うことで、宇部で子育てを行うことの魅力をアップすることができる。
- ・ 彫刻教育をさらに充実させる為に、人員体制を見直す必要がある。
- ・ 世界での類のない彫刻教育を行っている本市において、山口県内を問わず全国の教育機関との連携を取り、宇部市が日本の彫刻教育における中心として発信することができる。その為にも、過去に実施した教育のアーカイブ化とデータの公開が必要である。



■ 2010年度（平成22年度）

彫刻教育推進事業前の実験的な授業として実施。

実施した学校：楠中学校

延べ授業時間数：1

延べ参加人数：34人

■ 2011年度（平成23年度）【第24回UBE ビエンナーレ開催】

彫刻教育推進事業開始。

実施した学校：見初小学校、恩田小学校

延べ授業時間：68

延べ参加人数：1,104人

■ 2012年度（平成24年度）

中学校に範囲を拡大。

実施した学校：見初小学校、楠中学校、西岐波中学校、黒石中学校、東岐波中学校

延べ授業時間数：47

延べ参加人数：1,111人

■ 2013年度（平成25年度）【第25回UBE ビエンナーレ開催】

実施校を絞り、授業内容を再検討。

実施した学校：見初小学校、楠中学校

延べ授業時間数：53

延べ参加人数：1,739人



■ 2014年度（平成26年度）

第26回UBEビエンナーレ応募作品展を開催中のときわ湖水ホールで、10月28日、市内の小学校6校の4年生80人を対象に、彫刻鑑賞授業を実施。本物の作品の前で行なわれた授業は、参加した学校からの反応も良く、次年度の全小学校を対象にした授業の展開につながった。

実施した学校：見初小学校、新川小学校、恩田小学校、厚東小学校、二俣瀬小学校、小野小学校、船木小学校、万倉小学校、吉部小学校、楠中学校

延べ授業時間数： 54

延べ参加人数：2,635人

■ 2015年度（平成27年度）【第26回UBEビエンナーレ開催】

全小学校対象の彫刻鑑賞授業を開始。

実施した学校：全小学校24校、楠中学校、常盤中学校、（私立）慶進中学校、宇部高等学校

延べ授業時間数： 98

延べ参加人数：6,238人



■ 2016年度（平成28年度）

全中学校（美術部）対象の体験授業を開始。教育委員会が彫刻教育を予算化。

実施した学校：全小学校24校、中学校11校

延べ授業時間数：134

延べ参加人数：10,172人

■ 2017年度（平成29年度）【第27回UBEビエンナーレ開催】

積極的に作家による授業を推進。また、実施授業の中から、彫刻家をゲスト講師に迎えた特別授業に焦点を当て、作家の作品とあわせて授業の様子を紹介する宇部市彫刻教育成果展示「先生は彫刻家！」を開催した。

実施した学校：全小学校24校、中学校10校

延べ授業時間数：75

延べ参加人数：4,471人



3 PR活動

市民提言以降におこなった主な PR活動

- A. 彫刻のあるまちづくりサミット
- B. 野外彫刻半世紀展 50【北九州展】
- C. 野外彫刻半世紀展 50【宇部展】
- D. UBEビエンナーレ@渋谷ヒカリエ／東京
- E. UBEビエンナーレ PR展@瀬戸内国際芸術祭
- F. UBEビエンナーレ PR展@九州国立博物館

A. 彫刻のあるまちづくりサミットの実施

日時：2011年（平成23年）10月 27日（木）

場所：ときわ湖水ホール

参加者：旭川市長、長野市長、宇部市長

宇部市制施行90周年、野外彫刻展50周年を記念して開催された。各地で取り組まれている「彫刻のあるまちづくり」事業について、参加各都市の取組内容、特徴、問題点等を各市の市長から報告し、意見交換した。さらなる連携と事業の展開を図ることが目的。



B. 野外彫刻半世紀展 50【北九州展】

実施期間：2011年（平成23年）7月2日（土）～7月24日（日）

場所：北九州市立美術館分館（リバーウォーク内）

展示内容：

- ・UBEビエンナーレ50年の歩み。宇部市での彫刻展開催のきっかけとなった作品「ゆあみする女」からはじまる、UBEビエンナーレの歴史をたどる展示。
- ・UBEビエンナーレの紹介展示。第24回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）実物制作指定作品20点、入選作品20点など、平成23年9月に開催されるUBEビエンナーレの紹介展示。

C. 野外彫刻半世紀展 50【宇部展】

実施期間：2011年（平成23年）8月2日（火）～8月31日（水）

場所：緑と花と彫刻の博物館 ときわミュージアム分館（ときわ湖水ホール）

展示内容：

- ・UBEビエンナーレ50年の歩み。宇部市での彫刻展開催のきっかけとなった作品「ゆあみする女」からはじまる、UBEビエンナーレの歴史をたどる展示。
- ・UBEビエンナーレの紹介展示。第24回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）実物制作指定作品20点、入選作品20点など、平成23年9月に開催されるUBEビエンナーレの紹介展示。



D. UBEビエンナーレ@渋谷ヒカリエ／東京

実施期間：2015年（平成27年）2月18日（水）～ 3月1日（日）

場所：渋谷ヒカリエ 8F

開催目的：これまで宇部市が取り組んできた「UBEビエンナーレ」の歴史と精神を、より多くの人々に紹介することを目的に、日本で最も注目を集めるスポットのひとつである東京「渋谷ヒカリエ」で開催。

展示内容：

- ・第26回展の模型作品をはじめ、市内の野外彫刻の写真パネルや映像を通して、UBEビエンナーレの半世紀にわたる歴史の紹介。
 - ・UBEビエンナーレ開催のきっかけとなったファルコネ「ゆあみする女」や、第25回展大賞受賞作家富長敦也氏の作品展示を「ラブストーンプロジェクトin渋谷ヒカリエ」として行った。
 - ・会場には、歴代のUBEビエンナーレの図録閲覧コーナーや、翌年開催される瀬戸内国際芸術祭（UBEビエンナーレと連携）のPRパネルを設置した。
- また、会場の周辺では「8/TV」によるCMの上映や、渋谷駅利用者に向けたサイネージによる告知も行われた。

動員数：12日間 6,888 人（イベント参加者含む）



E. UBEビエンナーレ PR展@瀬戸内国際芸術祭

実施期間：2016年（平成28年）7月18日（月・祝（海の日））～7月31日（日）

場所：香川県小豆島土庄港きっぷ売り場横スペース

開催目的：

- ・半世紀以上の歴史を誇る「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」を広くPRする
- ・UBEビエンナーレ及び野外彫刻の魅力を紹介する
- ・豊かな自然と、現代アートが楽しめるときわ公園及び宇部市をPRする
- ・10月に宇部市で開催される UBEビエンナーレー次審査及び応募作品展、翌年の本展をPRする。
- ・小豆島に設置されている竹腰耕平氏作品「小豆島の木」及び、宇部市に設置されているUBEビエンナーレ出品作品「宇部の木」を紹介する。

展示内容：野外彫刻の設置映像や、バーチャルリアリティ機材を活用し、UBEビエンナーレ彫刻の丘や市内に設置されている野外彫刻の魅力を伝える展示を行った。会場内には、市内に設置されている野外彫刻の模型作品を展示し、実際に展示されている野外彫刻の写真と合わせて紹介した。

動員数：14日間 3,473人



F. UBEビエンナーレ PR展@九州国立博物館

■ 平成28年度実施

日付：2017年（平成29年）1月11日（水）～1月22日（日）

場所：九州国立博物館 エントランス中央

開催目的：

- ・半世紀以上の歴史を誇る「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」を広くPRする。
- ・ときわ公園及び宇部市をPRする。
- ・UBEビエンナーレ本展に設置される18点の野外彫刻（模型作品）を紹介する。

展示内容：

- ・実物制作指定作品紹介
- ・UBEビエンナーレ紹介
- ・宇部市及びときわ公園の紹介

■ 平成30年度実施

日付：2019年（平成31年）2月19日（火）～3月3日（日）

場所：九州国立博物館 エントランス中央

開催目的：九州国立博物館にてUBEビエンナーレのPR展示を行い、UBEビエンナーレの周知・開催機運の醸成を図るとともに、九州圏からの来場者増加を図る。





4 市民団体の活動

UBEビエンナーレ世界一達成市民委員会

野外彫刻展50周年を機に、2012年（平成24年）2月から5月の期間に設置された「UBEビエンナーレを考える会」によって提出された提言書に基づき、「50年後の彫刻展を見据え、UBEビエンナーレの今後のあり方について広く意見を求め、市民が議論を行う常任委員会」として設置された市民委員会。

A. 「撮っちゃお！彫刻 de ハロウィン」

ハロウィンコスチュームで撮影ポイントの彫刻と記念撮影をしながら、ときわ公園内を巡る彫刻フォトラリーを実施。

日時：2016年（平成28年）10月30日（日）

場所：ときわ湖水ホール

日時：2017年（平成29年）10月29日（日）

場所：UBEビエンナーレ彫刻の丘（白鳥大橋～常盤橋）

日時：2018年（平成30年）10月28日（日）

場所：ときわ湖水ホール



B. イブニング・ガーデンパーティー

第27回UBEビエンナーレ出展作家によるアーティストトーク開催後の交流会を実施。

日時：2017年（平成29年）8月5日（土）

参加作家：石上和弘、ハンス ショール、藤島明範、増野智紀、竹腰耕平

C. 橋アート 木村崇人「カモメの駐車場」

木村崇人氏の風見どりシリーズ「カモメの駐車場」を、ときわ湖水ホールと第27回UBEビエンナーレ会場を結ぶ常盤橋に設置。

搬入設置期間：2017年（平成29年）9月8日（金）～ 10日（日）

場所：常盤橋（ときわ公園内）



D. 第27回 UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展） オープニングイベント

第27回UBEビエンナーレ オープニングイベントとして、オープニングダンスと楽団によるフラッシュモブを実施。

日時：2017年（平成29年）10月1日（日）

協力：アズ創作舞踊研究会～ AS-Z、AMZモダンダンス、イシイバレエ、スズカダンススクール、宇部フロンティア大学付属香川高等学校吹奏楽部、宇部ビッグバンドJAZZオーケストラ

E. 第27回 UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）

「彫刻×踊る・舞う2017」

市内で活動するダンス団体が、UBEビエンナーレ出品作品をテーマに創作した演目を会場内で上演。このイベントは、2013年からUBEビエンナーレの開催に合わせて隔年で続けられている。3回目を迎えた「彫刻×踊る・舞う2017」では、市内で活動する8団体116名が参加し、第27回UBEビエンナーレ出品作品13点を巡りながら、15演目が上演された。

日時：2017年（平成29年）10月1日（日）

協力：アズ創作舞踊研究会～ AS-Z、AMZモダンダンス、イシイバレエ、スズカダンススクール、カラフル、黒田節子バレエスタジオ、左来子モダンバレエスタジオ、ボアフォルマスタジオ



うべ彫刻ファン倶楽部

2008年（平成20年）3月20日（木・春分の日）に行われた「第1回彫刻清掃」以来、年2回春分・秋分の日に合わせて、市内にある野外彫刻の清掃活動を行うボランティア団体。清掃時には、宇部市ふるさとコンパニオンの会による「彫刻ガイドツアー」も行われる。

■ 第19回彫刻清掃

実施日：2017年（平成29年）3月20日（月・春分の日）
実施区域：ときわ湖水ホール 桜山周辺（ときわ公園内）
参加人数：210人

■ 第20回彫刻清掃

実施日：2017年（平成29年）9月23日（土・秋分の日）
実施区域：ときわ公園彫刻野外展示場・正面玄関エリア
参加人数：257人

■ 第21回彫刻清掃

実施日：2018年（平成30年）3月21日（水・春分の日）
※雨天のため中止

■ 第22回彫刻清掃

実施日：2018年（平成30年）9月23日（日・秋分の日）
実施区域：宇部新川駅～宇部市役所周辺
参加人数：210人

■ 第23回彫刻清掃

実施日：2019年（平成31年）3月21日（木・春分の日）
実施区域：真締川公園・医学部エリア
参加人数：179人



5 彫刻設置活動

学校への彫刻設置

A. 厚南中学校

丘陵地を切り拓いた場所に位置し、同校南側には宇部市立厚南小学校が隣接する。同校の校区は、古くから住宅地の開発やそれに伴う人口流入が続いたため、宇部市内はもとより、山口県内でも屈指のマンモス校として知られていたが、1991年（平成3年）、宇部市立黒石中学校開校に伴い、校区の一部を分離した。

作品：いしずえ / 浅野芳彦

設置日付：2017年（平成29年）8月16日（水）

北部への彫刻設置

B. 旧吉部小学校

薄桃色のコンクリートの校舎。二階の窓からは、大きな桜がみえる。うべの里生徒会が立ち上がり、定期的にイベントを開催しており、日・月曜日には職員室カフェでランチとカフェを楽しむことができる。

作品：じいちゃんの鼻の穴に宇宙があった。 / 佐藤圭一

設置日付：2015年（平成27年）9月18日（金）

C. アクトビレッジおの

宇部市北部に位置する環境教育と交流の拠点施設であり、環境教育・スポーツ・レクリエーションの3つを基本機能としている。カヌーやボート、キャンプ、そば打ち体験などのイベントも行われている。

作品：UNTITLED / 西澤利高

設置日付：2017年（平成29年）6月29日（木）

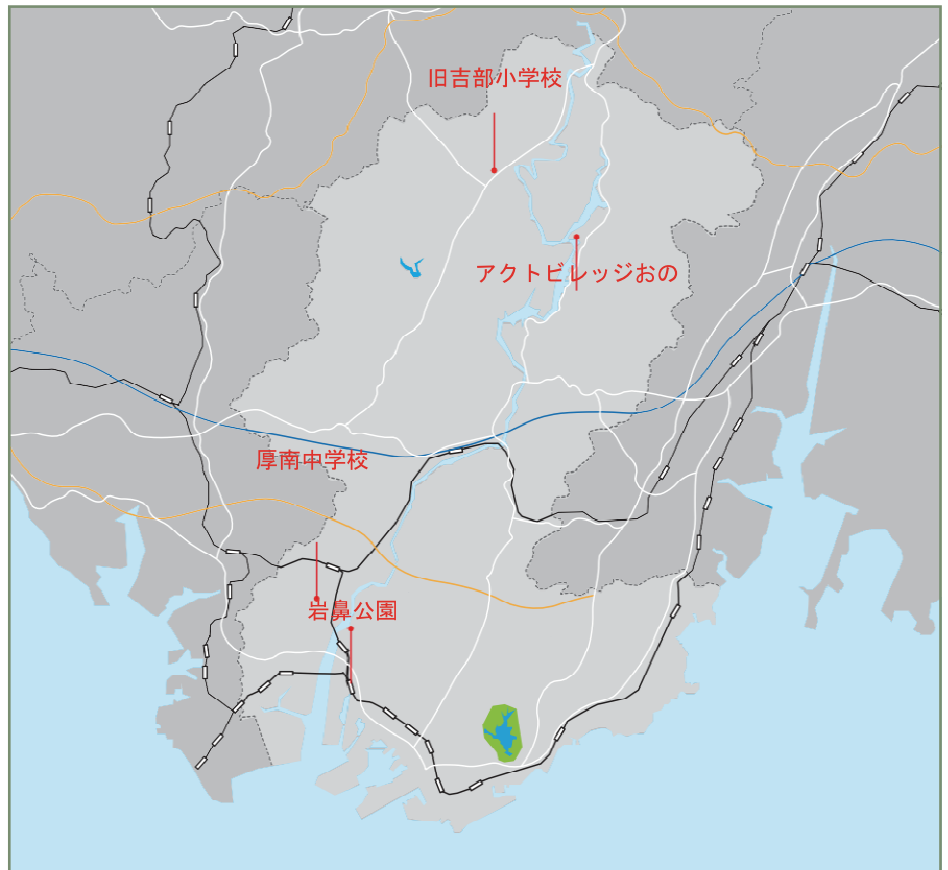
公園への彫刻設置

D. 岩鼻公園

宇部市の西、JR 岩鼻駅の北に隣接し厚東川河口部を望める公園。南に傾斜し、起伏に富んでおり、桜や夕日を望むことができる。

作品：orange / 津村拓

設置日付：2017年（平成29年）8月3日（木）



市民提言以降に設置された彫刻



いしずえ



じいちゃんの鼻の穴に宇宙があった。



UNTITLED



orange

6 AIR【アーティスト・イン・レジデンス】

今後の活躍が期待される若手から、国内外で注目される優れたアーティストを対象として第28回 UBEビエンナーレで新設されたのが、AIR（アーティスト・イン・レジデンス）部門。アーティストが市内に滞在し、地域とかかわりながら作品を制作する3つのAIR（アーティスト・イン・レジデンス）プログラムを行った。滞在制作および成果発表の支援を行うとともに、市民との多様な交流の場を設け、作り手であるアーティストや芸術に関わる人材を育成しながら、宇部市がめざすアートによるまちづくりを進めていく。滞在制作拠点となったのは、ときわ公園、中心市街地、中山間地域の3エリア。2018年9月～11月にかけて、それぞれの地域にアーティストが滞在し、作品を制作・公開した。

1. 室内インスタレーション / ワークショップ型

（こどもビエンナーレ）

地域から集めた素材を使って、宇部市内の小学生と協働で、海をイメージした立体的な織物の作品を制作し、「応募作品展」会場に展示した。

Elena Redaelli

主にアジアとヨーロッパで活躍する織物を用いた作品を代表とするアーティスト。



2. プロジェクト型（中心市街地）

宇部中央銀天街を拠点に、市民参加型の市街劇を制作・上演した。

葛谷春光堂

現代社会における様々な要望、問題に対して、社会とアーティストを繋ぐための活動をおこなっている。



3. 屋外インスタレーション / ワークショップ型（中山間地域）

地域から集めた素材や木材を使って、市民と協働で迷路を制作した。

豊福 亮

美術に関わる人材の育成に取り組む一方、芸術祭を中心として自身の作品を展開している。

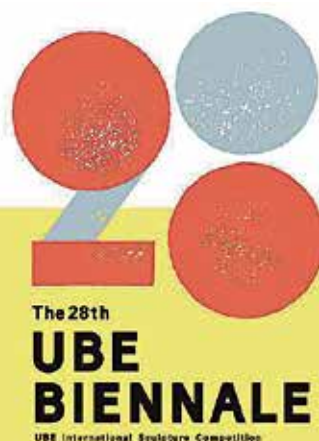


第28回 UBEビエンナーレ アーティスト募集

新部門

【AIR (アーティスト イン レジデンス) 部門】

アーティストの滞在制作および成果発表の支援を行うとともに、市民との多様な交流の場を設け、作り手であるアーティストや芸術に関わる人材を育成しながら、芸術都市としての価値を高めることを目指します。



概要

3つのアーティスト・イン・レジデンスのプログラムへの参加アーティストを募集します。
アーティストの豊かな発想・表現と市民とのコミュニケーションを通じた、新たな創造の場が生まれることを期待します。

1

室内インスタレーション + ワークショップ型 (こどもビエンナーレ)

宇部市内の小学校児童との共同制作によるアート作品をギャラリー等の展示室内で制作するアーティストを招へいします。子どもたちと関わりながら、感性や創造力を刺激し、表現することの楽しさを伝えることに興味のあるアーティストを対象とします。

〔滞在期間〕
2018年8月1日～11月9日までの期間のうち30日以上60日以内
〔成果発表〕2018年10月～11月
〔招へい人数〕1名
〔制作費〕上限40万円
※児童が制作する際にかかる材料費等は、別途宇部市が負担します。
〔旅費・滞在費〕上限20万円

2

プロジェクト型 (中心市街地)

宇部市中心市街地の空き店舗等を活用し、創作活動と市民交流を積極的に行うアーティストを招へいします。美術、メディア・アート、パフォーマンス、ソーシャリー・エンゲイジド・アート、領域横断型など、ジャンルを問わず、幅広い表現に取り組むアーティストを対象とします。

〔滞在期間〕
2018年10月1日～11月30日までの期間のうち30日以上60日以内
〔成果発表〕2018年10月～11月
〔招へい人数〕1名
〔制作費〕上限40万円
〔旅費・滞在費〕上限20万円

3

屋外インスタレーション + ワークショップ型 (中山間地域)

宇部市北部地域に滞在しながら、長く地域に残り、人々のコミュニケーションを引き出す場となり得る作品を制作するアーティストを招へいします。市民とのワークショップや共同制作等、市民参加の手法も併せてご提案ください。

〔滞在期間〕
2018年8月17日～11月9日までの期間のうち30日以上60日以内
〔成果発表〕2018年10月～11月
〔招へい人数〕1名
〔制作費〕上限350万円
※完成作品は宇部市の所蔵作品として北部地域に設置します。
〔旅費・滞在費〕上限15万円
※滞在場所は施設で提供します。

選考

日沼 祐子(女子美術大学教授)
藤 浩志(秋田公立美術大学副学長・教授)
藤原 徹平(建築家・横浜国立大学大学院Y-GSA准教授)
久保田 后子(緑と花と彫刻の博物館館長)

応募締切

2018年6月20日(水) 必着
※応募条件は要項をご覧ください。

招へいアーティスト発表

2018年6月下旬





1. 室内インスタレーション / ワークショップ型（こどもビエンナーレ）

アーティスト／ Elena Redaelli（エレナ・レダエリ
／ ノルウェー）

作品名／ PARTICIPATORY TEXTILE — NORI
MONOGATARI ／みんなの織物

滞在・制作期間／ 10月

参加者数／ 146人

制作・展示場所／ときわ湖水ホール アートギャラリー

すぐ近くにある港のこと、そこで行われているノリ養殖のこと、働く漁師さんたちのこと、アーティストのリサーチから見てきた「宇部の物語」を通して、子供たちが地域の歴史や資源について学び、身近にある素材を工夫しながら、アーティストと一緒に、テキスタイルの様々な技法を使って、海をイメージしたインスタレーション作品「NORI MONOGATARI」を制作した。材料は、海苔養殖に使われていた漁網や子供たちから集めた古着、中山間地域の竹など。完成した作品は、ときわ湖水ホールアートギャラリーに展示し、2019年1月6日まで、夜間ライトアップを行った。





2. プロジェクト型（中心市街地）

アーティスト／葛谷春光堂（くずやしゅんこうどう／茨城県）

作品名／日常劇場 All the world' s a stage

滞在・制作期間／10月～11月

参加人数／190人（延べ966人）

制作・展示場所／宇部市中央町三丁目10番11号、宇部中央銀天街

炭鉱都市として発展した歴史を持つまちの商店街「宇部中央銀天街」の思い出に関するインタビューをもとに、商店街各所に様々な年代の人と時代の記憶が混在し結ばれるように組み立てられた市街劇を、まちのひとと一緒に制作・上演した。商店街の再開発エリアに隣接する2階建て住宅を制作拠点に、オープンスペースとなっている1階駐車場を開放し、日曜日毎のワークショップや懇親会などの実施を通じて新しい場の構築を目指した。

※上演の様子は、UBEビエンナーレ公式サイト（ubebiennale.com）から動画などを紹介している。





3. 屋外インスタレーション / ワークショップ型（中山間地域）

アーティスト／豊福 亮（とよふくりょう／千葉県）
作品名／ UBE ラビリンス
滞在・制作期間／ 9月～10月
参加人数／ 525人
制作・展示場所／旧吉部小学校、旧小野中学校、アクトビレッジおの

UBEラビリンスは、宇部市北部、小野湖のほとりにあるアクトビレッジおのの中心にあった花壇スペースを改修し、500名を超える市内の子供たちと一緒に制作した巨大迷路である。壁面は子供たちが自由に描いたカラフルな絵や模様で埋め尽くされ、迷路の中には物見やぐらや、イベントで利用できる屋根のあるスペースや広場などがあり、設置後も持続的に利用できるようになっている。

◆「UBE ラビリンス」

設置場所／〒 7541-1311 宇部市大字小野字大日原7025 番地（アクトビレッジおの内）

◆時間／ 9:00 ～ 17:00（12/29 ～ 1/3は休み）

◆入場料／無料

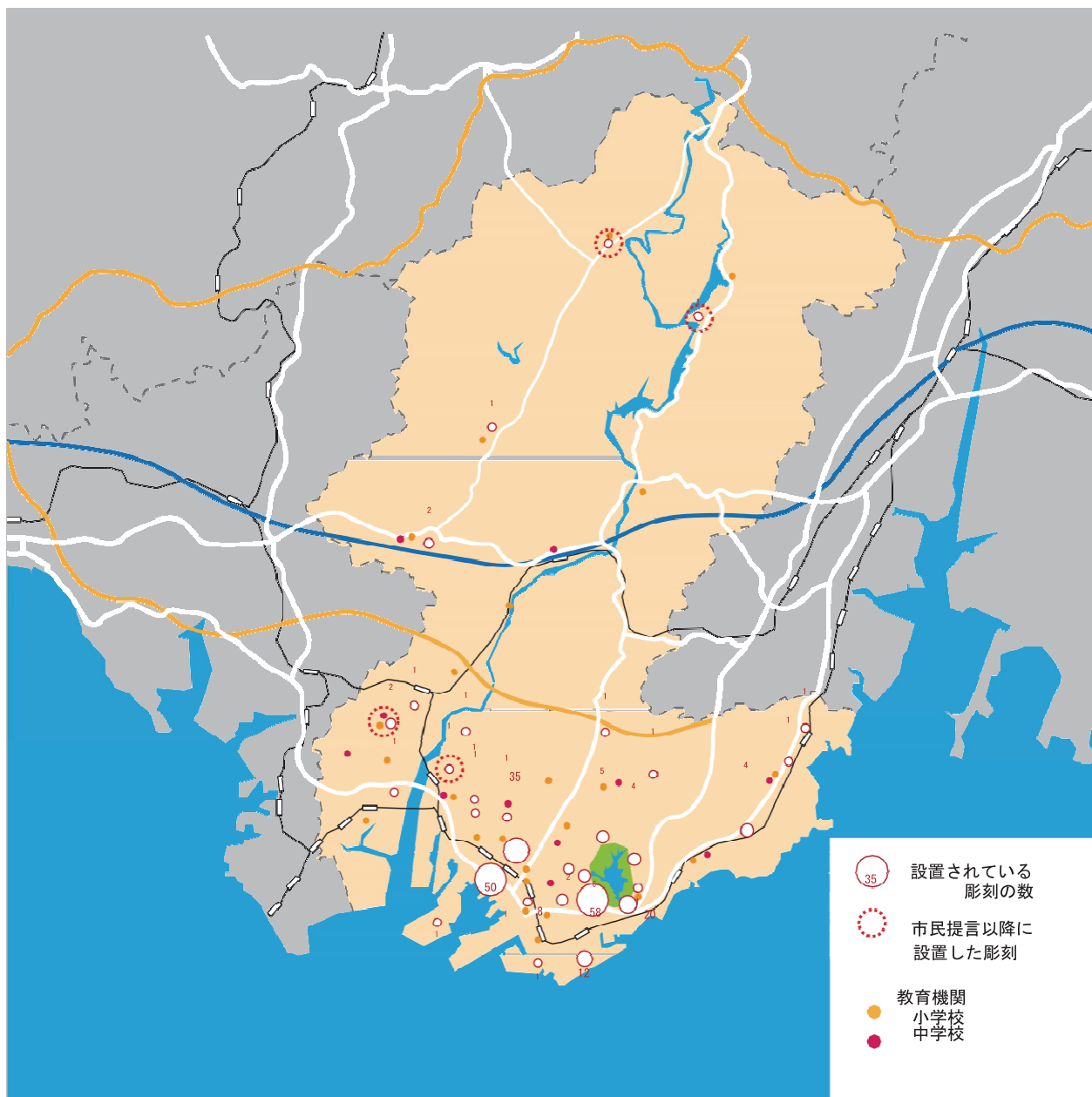


2章 野外彫刻のまちなか設置基本方針

2.1 概要

宇部の彫刻のまちなか設置の歴史は、現代日本彫刻展より前の1958年（昭和33年）にまでさかのぼる。工業都市として発展する裏で煤塵公害によって荒れていった環境をなんとかしようと立ち上がった市民運動の中、小さな彫刻（ファルコネ作の裸婦像のレプリカ）を宇部新川駅前に設置したことからその歴史は始まる。宇部市においては、彫刻の設置とはその起源からしてまちづくりと一体の運動であった。

宇部市は2018年（平成30年）に立地適正化計画を定め、多極のネットワーク型の都市を目指すことを目標に掲げている。旧楠町である北部地域も含め、宇部市は臨海部、内陸部、中山間地域と広域に広がる都市域を持っている。まちづくりとして環境整備すべき範囲は膨大であり、UBEビエンナーレの買い上げ作品及び寄贈された彫刻の設置に関しては、①UBEビエンナーレの市民普及の取り組みに沿うこと、②都市計画画上重要な箇所に整備していくこと、の2点を軸に、次の6つの基本方針を定める。



2. 2 設置にかかる手順について

野外彫刻の設置については、設置場所の特性や想定される鑑賞者、地域コミュニティとのかかわり、隣接する施設等との関係性等を重視しながら、UBEビエンナーレ運営委員会設置要綱に基づき、UBEビエンナーレ展示委員の指導・助言をもとに設置案を作成し、設置する地域への周知を行いながら設置を行う。

設置計画

- ・ 設置計画には、UBEビエンナーレ推進課が関わり、UBEビエンナーレ展示委員の意見を必ず聴く
- ・ 設置場所の検討には、彫刻の作家及び著作権継承者等の意見を確認する
- ・ 設置計画は、展示委員の助言・作家の希望をもとに UBEビエンナーレ推進課が案を作成し、最終決定は市長が行う

設置の留意点

- ・ 設置に際しては重機の搬入動線、メンテナンス動線を十分に配慮する
- ・ 彫刻の内部に入れる作品は、人の目が行き届くように配慮する
- ・ 彫刻と地形の起伏、彫刻と樹木が有機的な関係を構成できるようにする
- ・ 金属作品など火傷の危険性のある作品について、設置場所に特に留意する
- ・ 定期的に彫刻の状況を確認する体制をつくる

2. 3 彫刻設置の方針

＜設置方針1＞ 子供と彫刻の関係をつくる

小学校や小学校の登下校時に子供たちが触れられる場所に彫刻を設置する

2011年度（平成23年度）より宇部市内の小学生を対象にした彫刻教育の機会を設けている。2017年度（平成29年度）までの7年間に、延べ2万7千人以上の子供たちが彫刻に触れる機会を持った。現代彫刻に幼少期より触れる機会を増やすことで、宇部市で育つ子供たちの感性や発想を豊かにすることができるが、こうした彫刻教育の機会と合わせて、彫刻を子供の日常環境のなか（登下校時に目につく場所や校庭の一部）に設置していくことで、その教育効果を支援し、高めていくことになる。

彫刻は一瞬のインパクトや刺激が映像メディアに比べて小さいが、日常環境の一部に置くことで、子供たちにとっての宇部の街の記憶や原風景（自己形成空間）の獲得に大きく寄与し、生まれ育った宇部市への愛着、シビックプライドの醸成につなげることが期待できる。

設置上のポイント

- ・ 登下校時などに目につく場所、校庭の一部の重要な場所に設置する



厚南中学校

＜設置方針2＞ 地域核と一体となった彫刻空間をつくる

コミュニティ核やコミュニティ拠点の環境と一体で彫刻を設置する

平成30年に定められた立地適正化計画では、車社会によってスプロール化し、結果として希薄化・空洞化が進行してしまった宇部市の都市を、「多極のネットワーク」として再ビジョン化を試みている。「多極のネットワーク」の中で重要視されるのは、＜都市拠点＞＜地域拠点＞＜コミュニティ拠点＞＜コミュニティ核＞＜自然・歴史拠点＞と呼ばれる交通や生活の結節点であり、これらの場所では市民生活にとって重要な様々な活動が集まり交流が発生する。こうした地域核の環境整備状況と連動しながら、花や緑と共に彫刻の広場としても環境をつくっていく必要がある。現在、北部の地域核で彫刻の設置を推進しはじめているのは、旧吉部小学校、アクトビレッジおのなどである。

設置上のポイント

- ・地域核の計画を推進する部局とUBEビエンナーレ推進課及びUBEビエンナーレ展示委員との連絡会議を計画段階から必ず設ける



旧吉部小学校



アクトビレッジおの

＜設置方針3＞ 新市役所周辺の彫刻庭園化の推進

新市役所周辺を彫刻庭園として整備し、シティプロモーションの柱とする

本市の市役所本庁舎は、老朽化や耐震性能、ユニバーサルデザイン、防災拠点としての機能不足など、様々な課題を抱えていることから、建替えを進めている。新市役所整備に合わせて、市役所周辺を宇部市のビジョンを示すシティプロモーションの場にしていくことが重要となる。単に花と緑と彫刻があるだけでなく、ランドスケープと彫刻とが融合した環境としてデザインしていくことで、シティプロモーションの重要な柱となる。

設置上のポイント

- ・新市役所の計画を推進する部局とUBEビエンナーレ推進課及びUBEビエンナーレ展示委員との連絡会議を計画段階から必ず設ける



箱根彫刻の森美術館の事例

<設置方針4> ときわ公園の彫刻美術館化の推進

ときわ公園を彫刻美術館としてより魅力的に整備していく

ときわ公園内には多数の彫刻が設置されているが、第一展示場、第二展示場というような大雑把なゾーニングの設定しかなく、また、ツツジなどの下草が育ちすぎるなどの彫刻と環境との不調和が問題となっている。そのほか、彫刻が特にテーマ設定もなく設置されている状況にあるなど、その所有する彫刻資源を生かし切れていないとは言えない。UBE ビエンナーレの入選作品は回を追うごとに多様化しており、地形と一体となった彫刻、モニュメント性の高い彫刻、森と親和性の高い彫刻、植物と一体となった彫刻、水辺と親和性の高い彫刻、遊具型の彫刻、動物や果物や昆虫などをモチーフにした作品、動きのある作品、物質性に着目した作品、椅子などのファニチャーの要素をもった彫刻など、多様なアプローチがある。

こうした個別の彫刻の持っているテーマを意識しながら、新たに配置を行い、また一部の作品の再配置を行うことで、市民により親しまれ、世界のアートファンから注目される国際水準の彫刻美術館としてアピールしていくことができる。

設置上のポイント

- ・ときわ公園の計画を推進する部局と UBEビエンナーレ推進課及びUBEビエンナーレ展示委員との連絡会議を計画段階から必ず設ける
- ・彫刻展示ゾーンの植栽計画については UBEビエンナーレ推進課及びUBEビエンナーレ展示委員との協議によって進める



ときわ公園

<設置方針5> まちなかの彫刻再配置の基本方針

市民の行動様式の変化に応じて、彫刻の再配置をしていく

中心市街地における彫刻設置は、国道沿いなどのロードサイドを中心に設置されていった。車社会の進行と、中心市街地の居住人口の大幅の減少によって、中心市街地を散策する人はほとんど見かけない状況になっている。しかしながら、人が通らないからといって重要性が低いわけではなく、いくつかの重要な交差点の彫刻は、街の風景として親しまれている。

一方で、ほとんど人通りがなく、また周辺に人が住んでいないオープンスペースに設置されている彫刻も見受けられる。周辺の昼夜間の滞在交流人口及び周辺の居住人口を鑑みて、彫刻の設置が望まれる場所の選択と集中としての再配置の必要性を考慮する必要がある。

再配置検討のポイント

- ・ 周辺の昼夜間の交流人口
- ・ 周辺の居住人口
- ・ 市民への風景の浸透度



市街地に設置された彫刻

<設置方針6> 彫刻設置の際にその他考慮すべきこと

彫刻の搬入設置時の設置重機の経路、彫刻の基礎のつくり方が重要になる。また彫刻それ自体についても作家任せではなく、作家に質問を投げかけて適切な仕様にする必要がある。

金属性の彫刻の場合には、金属の板厚が薄いと熱による表面温度の上昇が極端におきるので、十分なテストが必要である。また、金属製の彫刻は風雨にさらされての錆や腐食、内部結露水の排出経路などの検討も重要になる。石彫については、地震などで崩落することがないように安定性についての検討が必要である。彫刻によっては、電気配線や水道との接続が必要な彫刻もあるので、インフラと一緒に設置場所は考慮する必要がある。彫刻を歩道上に設置する場合には、歩行者や自転車での安全性や視認性についても考慮する必要がある。

■設置環境

- ・ 彫刻の設置は、彫刻が主役ではなく周囲の環境との調和が重要。作家の意志を尊重しながら、周囲との関係性を意識した設置を行う
- ・ 太陽光、隣接する建物や植栽との関係性を重視
- ・ 彫刻の種類によっては、近くで見ると遠くから見る作品がある。彫刻がどの位置から鑑賞されるのか考慮し、設置位置を選定

■基礎の設計

- ・耐震性、耐風圧性を考慮
- ・軟弱地盤については、基礎の形状に留意
- ・基礎と作品の連結部分については、搬入時の設置方法や基礎との接合方法、設置後のメンテナンス等に影響があるため、制作段階から適切な仕様となるよう作家と調整する
- ・基礎が地面に露出する場合は、安全面・管理面で配慮が必要
- ・作品と地面の設置面と、基礎の関係についても留意が必要（作品の設置面に合わせて、基礎の形状を検討する）
- ・基礎と作品の連結については、メンテナンス時に取り外しができるようにする

■搬入経路の確保

- ・作品設置には、トラック・クレーン・ショベルカーなどの重機が搬入できる動線とスペースが必要
- ・作品設置後に、周囲の環境整備を行う際には、作品を搬出できるだけの重機の動線やスペースを確保しておく

■安全性

- ・設置の際は、歩行者・自転車・車道からの視点などに配慮する（市街地の歩道等に設置の場合は、警察、道路管理者、電気会社、上下水道局、ガス会社等との協議が必要）
- ・作品に突起がある場合は、特に作品周囲の動線に留意が必要
- ・金属製の作品については、結露による内部腐食や鑑賞者のヤケド防止の対策が必要
- ・可動作品は、可動範囲と可動部分の安全対策が必要
- ・作品そのものの構造についても、作品の素材・形状によっては構造計算を行う